



富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

～ 34 ブロンズ・フェネル ～

職藝学院

教授 渡邊 美保子

フェネルは地中海原産の寿命の長い宿根草です。古代ギリシャのオリンピック選手はフェネルの種を嚙んで勇気と力を得たと言われています。日本では、平安時代に中国から入り薬草として栽培されてきました。今ではハーブとしておなじみで、独特の柑橘系の香りを持つ葉や種は料理に利用されています。今回はフェネルの園芸品種であるブロンズ・フェネルをご紹介します。原種のフェネルの葉は鮮やかな緑色ですが、ブロンズ・フェネルの葉は銅のような色であることから名付けられました。

ブロンズ・フェネルは、早春の芽出しから種ができる秋まで長く楽しめます。3月初旬、真っ黒いしっぽのようなふさふさしたものが土の中から現れます。庭ではそこだけ焦げてしまったように見えてとても目立ちます。しばらくすると細い糸状の葉のようなものがふわりと煙のように広がります(写真1)。茎が立ち上がってくる5月頃には、葉はますます黒みを増してきます。



写真1 ブロンズ・フェネルの芽出し。4月中旬。

6月になると茎は右左に腰を振りながら、くねくねと伸びてゆくように見えます。細い糸状だった葉が太く長い針のように姿を変える。7月頃に、黄色い小さな花が傘を広げたように咲き始めます(写真2)。この頃になると花や葉に鳥のフンのようなものが付いているのに気づきます。これは黒アゲハの幼虫です。幼虫は花が盛んに咲き始める7月から8月にかけて、ますます太くなってきた針のような葉を食べて大きくなります。幼虫の姿が苦手な方は少しだけ我慢をしてください。葉を食べつくすことはありません。やがて美しい姿になって飛び立ってゆきます。

8月の姿は、まるで黄色の打ち上げ花火が連続して上がっているように見えます。そして、9月には黄色や緑色の花火になり(写真3)、10月には茶色の花火に変わり、やがて、とんでもない数の種ができます。勇気と力が必要な人は一つ嚙んでみてください。不安が消えるかもしれません。

ブロンズ・フェネルは日当たりがよく、水はけの良い所を好みます。植え付けて1年目はみ

すばらしいのですが、冬を3回も越すと株はとても立派になります。草丈は、150cm～200cm位になります。そのため広い敷地にのびのびと植えると良いでしょう。株の周りにはアオイロフジバカマなどを植えると雑草が入りにくくなります。ただ、この組み合わせは、広い敷地を持ってあましている方にお勧めします。



写真2 7月初旬。右下に黒アゲハの幼虫がいる。



写真3 9月中旬。開花している花と緑色の種になったものが混ざりあう。根元はアオイロフジバカマ。